不定期刊行　　第529号　2015.01.05

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者　大西　浩
大町高等学校

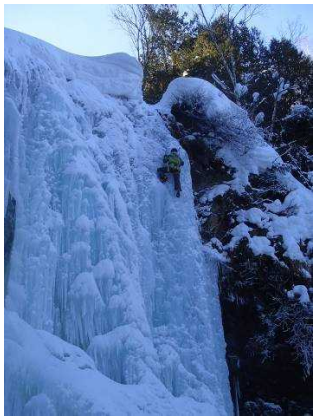
冬はアイスだ、善五郎！・・・大町高校山岳部新春第１弾

正月明け、最初の山はアイスクライミングでスタート。1月2日、大町山の会の山内君、同じ大町山の会所属で大町高校のＯＢでもある小沢君と示し合わせて乗鞍山麓の善五郎の滝へ。せっかくの機会だからと、生徒有志を募ったところ、すでに進路の決まった3年生の平川、2年生の泉の両名が是非にとのこと。アイスクライミングは、季節限定、地域限定、しかも道具がないことには話にならないので、高校生にはかなり敷居が高い遊びと言える。しかし、やってみたいというニーズはある。

善五郎の滝は乗鞍スキー場からのアプローチは5分！しっかりした支点をとれ、トッププロープもかけられる（かけに行くには少し登攀技術、もしくはアイスクライミングのリード技術が必要だが）ので、生徒を連れて行ってもあまり危険はない。技術的な部分のサポートと、道具については、去年まで池工山岳部の外部コーチを頼んでいた山内君に協力を頼んだ。こうして、高い敷居を低くして臨んだ。

滝にはすでに先行パーティが一組、右の小滝にとりついていた。我々が準備をしているところに、静岡のパーティが到着。この静岡のパーティは、一昨年池工山岳部が夏山合宿で前穂に行ったとき、北尾根を登って来たＦ氏だった。それに気づいたのは山内君。どうせ何本もルートがとれない狭い滝。仲よくやりましょうと最初から和気藹々。名古屋パーティがリードで登るのを横目に、サイドから本流の滝の上部に回り込もうと小生が右のミックスの岩場をトップで登る。先にも書いたが、実はここの出だしがややオーバーハングのダブルアックスの登りでちょっとヤバい。正月の暴飲暴食と運動不足でちょっと重くなった身体を持ち上げるのに苦労した。それでもなんとか登りあげ、滝の上部に出た。静岡のＦ氏がセカンドで登って来た。それぞれ1本ずつロープを垂らし、名古屋パーティの1本と合わせ3パーティ3本のルートがセットされた。

まずはそれぞれのロープを使ってということで、大町高校パーティは滝の本流に近いルートを登る。最初は力任せにアックスを打ち込み、足場が不安で何度もアイゼンを蹴り込む生徒たち。最初の1本は見ているより難しいと途中リタイヤの生徒。しかし、上手い人のスマートな登りを見ているうちに、徐々にコツをつかみ、アックスの打ち方や足の置き方も上達。静岡パーティのルート、名古屋パーティルートと2本3本登るうちには要領を得てきた。平川、泉ともに「一回はやってみたかった」ことができたと満足げ。ここはスノーシューのトレッカーや写真撮りも訪れるので、ギャラリーもそれなりだ。時の経つのも忘れ気が付くと2時。遠来のパーティが帰るという。全員で記念写真を撮る。我らもあと1時間と決め、最後の1本、2本と何かに取り憑かれたかのように登り続けた。・・・(写真は泉君)



雪の多さにビックリ、戸谷峰！・・・大町高校山岳部新春第２弾

アイスクライミングから1日おいた5日（月）、松本市東部の戸谷峰・六人坊・三才山・烏帽子岩を周回するコースで、大町高校山岳部新春日帰り山行を実施した。2年生の都合がつかず、参加メンバーは3年の平川、1年の矢口、郷津、太田の4名とちょっと寂しかったが、最高の天気の一日を当てた。

8時45分、登山口の三才山出合駐車場を出発。一昨年松本市が整備した新コースで戸谷峰を目指す。登山口はほとんど雪もなく、快適な歩き出し。例年通りかと思いきや、1300mを越えるころから普段より多めの雪。戸谷峰の山頂にはまずまずのペースで10時40分に到着。稜線上も雪は多かったが、それでも予定よりは若干の遅れの2時間で三才山に到着。すでに何度もかわらばんでも紹介している通り、この区間は地図上に登山道の記載がないので、途中途中で、しっかり読図の練習をしながら、余裕の行動。

ところが、林道に出て驚いた。普段ならこの時期でも車の轍があり、雪もせいぜい10㎝か15㎝がいいところなのだが・・・。轍はおろか、膝上までの積雪。この林道は距離にしておよそ1.5㎞。普段であれば40分もあれば通過できるのだが、なんとなんと、この平坦な林道を通過するのに途中で一本休憩をいれ、優に2ピッチかかるとは。やや登り勾配とはいえ、平坦な林道が今回の核心部とは全く想定外。正面に北アルプスを見、右手には戸谷峰から続く稜線、左手には烏帽子岩からの下山路、間の谷底に松本平を見渡し、大パノラマの広がる光景は圧巻だった（下のパノラマ写真）が、さすがに誰もが無口になるようなラッセル（上写真）には閉口した。烏帽子岩の展望台に到着した時には、3時を回っており、さすがに少し焦った。ここからは、勝手知ったる小生が先頭で、とにかく明るいうちに下ろうと先を急ぐ。標高差700m強、距離5㎞の道をノンストップで駆け下り、駐車場に着いたのが、夜陰の迫る4時50分。なんと1時間半で下ったが、実働8時間の超ハードな2015年の幕開けとなった。

何はともあれ2015年が始まった。烏帽子から見る御嶽はまだ噴煙が上がっており、地震に襲われた長野県内北部は、大雪の幕開けとなっている。災害の多い2014年だったが、今年は平穏な年であってほしいと願う。今年もよろしくお付き合いのほどを。（大西記）